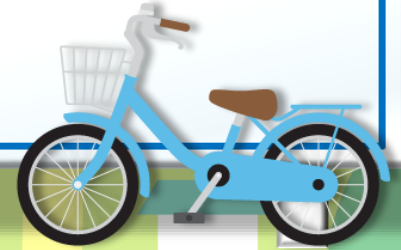


自転車に乗って

暖かくて気持ちがいい季節になりました。思わずペダルを漕ぎ出したくなるような、自転車の本の特集です。

※こちらで紹介した資料は、今号配布期間中「ぷらっつ☆篠崎コーナー」に展示しています。



『東京周辺自転車散歩』

和田 義弥ほか著
山と溪谷社
291.3ト
篠崎ほか所蔵

東京の都心から、郊外までバラエティに富んだ28の自転車コースをご案内。コースの距離、所要時間はもちろん、難易度、高低差やコース上にある名所が写真付きで紹介されています。自転車で東京を散歩して、いつもとは違う景色を見ませんか。

『発明の歴史自転車』

佐野 裕二著
発明協会
536サ
篠崎所蔵

初期の自転車にはペダルがなかったことをご存知ですか？ 左右非対称な三輪自転車がかつて流行していたことは？ 現在馴染みの便利な自転車が完成するまでに登場したへんてこな形の自転車や、発明家たちを魅力たっぷりに紹介します。

『ごめんじゃすまない！自転車の事故』

岡田 正樹ほか著
芸文社
681才
篠崎ほか所蔵

自転車を運転する時やってはいけないのは？ ①傘をさして乗る、②イヤホンをして乗る、③スマホを見ながら乗る——実は全て違反行為。この本は自転車事故の怖さを事例とともに紹介、加害者にも被害者にもならないための知識を易しく解説してくれます。

『ジロ・デ・イタリア 薔薇色の輪舞(ロンド)』

砂田 弓弦撮影・執筆
八重洲出版
786ス
篠崎所蔵

世界三大自転車レースのひとつ「ジロ・デ・イタリア」の魅力がたっぷり詰まった写真集。疾走する選手達、美しいイタリアの風景、歓喜のゴールシーンはもちろん、「パンツの中に蜂が入り、大騒ぎするパオロ・ベッティーニ」なんていうお茶目な写真も。

『自転車日記』

夏目 漱石著
岩波書店
B908セ
篠崎ほか所蔵

漱石がロンドン留学中に、下宿のお婆さんにすすめられて自転車の稽古をする模様を描いたエッセイ。不慣れた自転車で何度も倒れ、住民に嘲笑されながらも頑張る姿に、文豪も同じ人間なんだと親近感が湧きました。漱石が遠い異国の地で自転車に奮闘する姿をお楽しみ下さい。

『サクリフェイス』

近藤 史恵著
新潮社
Fコ
篠崎ほか所蔵

自転車ロードレースは、実力とともに駆け引きの上手さで勝負が決まり、落車する危険と隣り合わせでもある。日本の実業団で走る白石誓は様々な思惑が絡み合う中レースに臨んでいたが、ついに悲劇が起こってしまう。単なる事故ではないのか？ その結末や如何に……。

『しんちゃんの自転車』

荻原 浩著
集英社文庫
BFタ
篠崎ほか所蔵

主人公の私を、真夜中に自転車に乗って迎えに来るしんちゃん。私はしんちゃんの自転車の後ろに乗っておたま池の中州にある、行方不明になった神主がいるという古びたほこらを目指します。ある秘密を抱えたまま冒険する二人の姿に、切なくも心が温かくなりました。

『ラン』

森 絵都著
理論社
(絶版 ※現在は講談社にて刊行)
Fモ
篠崎ほか所蔵

13歳で家族と死別した環。その後一緒に暮らした叔母も失い、死の境界線が薄らいでいく。ある日、もらった自転車に跨り、どこまでもどこまでも走っていくと家族のいる異世界に辿り着いた。環は自転車に導かれ、翻弄され、生きる強さを学んでいく。

『ヒューマン・コメディ』

サローヤン著
小川 敏子訳
光文社古典新訳文庫
B933サ
篠崎ほか所蔵

家計を助けるために電報配達をする少年ホーム。年老いた電報技師、貧しいアルメニア移民の家族……。彼の目を通して、ひとりひとりの物語が明らかになっていく。少年たちの健気さに胸うたれ、彼らの幸福を願わずにいられない。

『奇跡の自転車』

ロン・マクラーティ著
森田 義信訳
新潮社
933マ
篠崎ほか所蔵

体重126キロ、43歳のスミシー・アイド。事故で両親を亡くし悲しみの底で彼が遺品の中に見つけたのは、行方知れずの姉の死亡通知。そして実家のガレージに、少年時代の愛車・ラリー。多くを後悔し立ち止まった心のまま、姉の眠る町を目指す彼を、苦しくも愛に満ちた旅が待っていた。